

# LOBO 調査

## 早期景気観測

7月分 日商調査日 7月13日～20日  
当所調査日 7月13日～20日

### LOBO調査とは

全国各地の商工会議所が参加して、日本商工会議所が実施する全国規模の早期景気観測調査。当所ではさらに、会員企業40社の皆さまにも調査へのご協力をいただき、より地域に根差した調査を実施。

### 日商調査

7月の全産業DI ▲17・8  
(前月比+2・5ポイント)

### ○中小企業の景況感

人流の回復とともに、夏物商材が好調だった百貨店などの小売業で業況が改善した。民間の設備投資が堅調に推移した製造業や、小売業・製造業に牽引された卸売業で業況が改善した。

一方で、全国的な新規感染者数の増加を受け、飲食・宿泊業で予約キャンセルが出始めたサービス業や、建設資材の高騰や設備機器の納期遅れが続いている建設業は業況が横ばいに留まっている。世界的な物流の混乱や資源・原材料価格の高騰、円安、深刻な人手不足に伴う人件費増などのコスト増に歯止めがかからず、企業収益の足かせとなっている。コスト上昇分の価格転嫁も十分に行えない中、中小企業の業況は、改善傾向が続くも力強さを欠く。

### ○先行き

先行き見通しDIは▲23・0（7月

比▲5・2ポイント）。

4月に行動制限が解除されて以降、業種を問わず回復基調に入り、特にサービス業・小売業では、需要喚起策による売上回復を期待する声がある一方で、物価上昇による消費マインドの低下を危惧する事業者が増加した。また、今後も資源・原材料価格の高騰や円安の急伸によるコスト増加が見込まれる中、感染再拡大による行動制限などへの懸念が強まり、中小企業の先行きは、厳しい見方。

### 〔関東ブロックの業況についてのコメント〕

一部資材の価格上昇は落ち着きが見えてきた。一方で、すでに値上げが決まっている資材もあり、適切な価格転嫁を実施していきたい（建築工事業）。半導体関連の需要が伸び、売上は増加している。しかし、国内で製造されていない部品も使用しているため、供給不足が足かせになっている（特殊産業用機械製造業）。

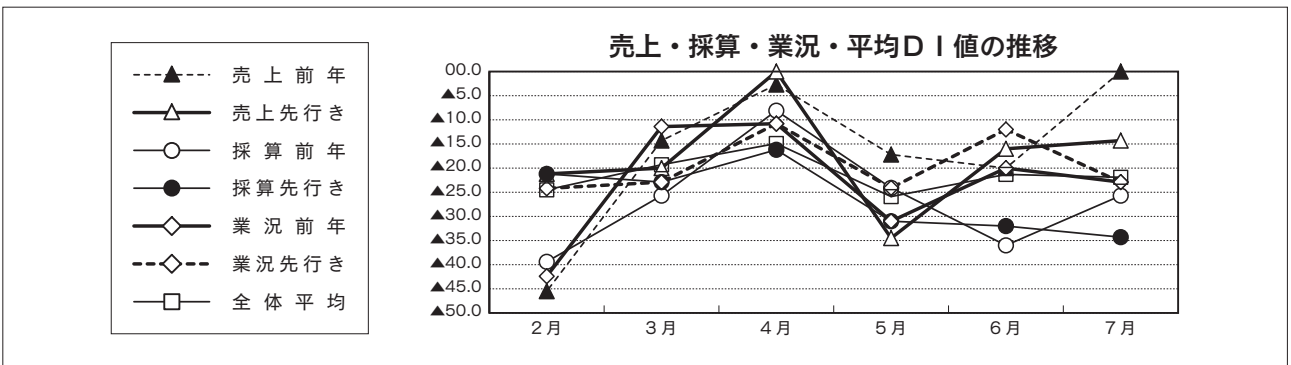
### 当所調査

「原価高騰、先行き不安な中、新型コロナウイルスは第7波へ」

全体平均DIは▲21・9で前月に比べ▲0・6ポイントの悪化。項目別では、仕入先行き▲19・4ポイント、業況先行き▲10・9ポイントの悪化が見られた。コメントには、「仕入値が上がる予定であるが、価格転嫁が難しく利益減」（家具・建具卸売業）、「新型コロナウイルスの感染急増により客数が減少した」（菓子小売業）など、原価高騰の影響と、第7波の影響が見受けられた。

(全産業) 水戸商工会議所会員企業LOBO調査(DI値推移) (サンプル数40社)

項目	令和3年		令和4年				
	7月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
売上前年	6.9	▲45.5	▲14.3	▲2.7	▲17.2	▲20.0	0.0
売上先行き	▲6.9	▲21.2	▲20.0	0.0	▲34.5	▲16.0	▲14.3
採算前年	▲10.3	▲39.4	▲25.7	▲8.1	▲24.1	▲36.0	▲25.7
採算先行き	▲20.7	▲21.2	▲22.9	▲16.2	▲31.0	▲32.0	▲34.3
仕入前年	▲48.3	▲54.5	▲68.6	▲78.4	▲69.0	▲64.0	▲74.3
仕入先行き	▲34.5	▲51.5	▲60.0	▲73.0	▲65.5	▲52.0	▲71.4
社員前年	20.7	15.2	17.1	18.9	10.3	12.0	14.3
社員先行き	13.8	15.2	20.0	16.2	6.9	4.0	14.3
業況前年	▲17.2	▲42.4	▲11.4	▲10.8	▲31.0	▲20.0	▲22.9
業況先行き	▲27.6	▲24.2	▲22.9	▲10.8	▲24.1	▲12.0	▲22.9
資金前年	▲6.9	▲18.2	▲11.4	▲8.1	▲20.7	▲12.0	▲14.3
資金先行き	▲13.8	▲6.1	▲11.4	▲5.4	▲10.3	▲8.0	▲11.4
全体平均	▲12.1	▲24.5	▲19.3	▲14.9	▲25.9	▲21.3	▲21.9



※DI値(景況判断指数) = (増加・好転等の回答数 - 減少・悪化等の回答数) / 全回答数 × 100。ゼロを基準として、プラス値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナス値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものでなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりや意味するもの。